

「過活動膀胱とは？」

平成 25 年 7 月放送

澤田 樹佳

過活動膀胱とは、2001 年の国際禁制学会で定義された病名です。切迫した尿意があって、多くの場合は頻尿や夜間頻尿、切迫性尿失禁を伴う状態の総称を言います。原因となる疾患は脳血管障害、認知症、脊髄損傷、骨盤底の脆弱化、加齢など多岐に渡りますが、原因がはっきりとしない「特発性」の過活動膀胱も少なくありません。患者数は 40 歳以上で 810 万人と推定されていますが、病院への受診率は決して高くありません。

排尿に関係する症状、例えば「頻尿のためにバス旅行に行けない」、「仕事に支障が出る」、「夜も頻尿のため眠れず、日中に眠気があったり、どこことなくダルイ感じがする」などの症状があれば医療機関への受診をお勧めします。医療機関を受診した際、最初に行うのは問診です。過活動膀胱かどうかを調べるためのスクリーニング質問票や、過活動膀胱の症状の程度を調べるための質問票があり、それらを活用することにより過活動膀胱かどうかを判定します。問診以外には膀胱の状態を調べるための検査を行うこともあります。尿意切迫感があるからといって、必ずしも過活動膀胱とは限りませんので、他の病気の可能性も含めて確認するための検査が必要です。初診で行う検査は、主に腹部エコー検査、尿検査などです。腹部エコーでは膀胱の形態や残尿量を測定します。尿検査では血尿や膀胱炎など尿路感染症の有無を調べます。これらは比較的侵襲の少ない検査です。

治療に関しては薬物療法と非薬物療法がありますが、現在は薬物療法が主体であり数多くの



お薬があります。これらのお薬を適切に飲むことにより、多くの場合で症状の改善が見込めます。

排泄は生物すべての生理現象です。気楽に出せる話題ではありませんが、恥ずかしがる必要はありません。一人でくよくよ悩むことはありません。困ったら、近くの泌尿器科受診をお勧めします。